



過去のTOPページ

BSE問題、日本ハム事件、中国野菜の農薬汚染、無登録農薬問題というように、この年は国じゅうに ” 食の信頼 ” という

意味で大きな衝撃が走った年でした。

庄内協同ファームは、いままで以上に認証への取り組みをすすめてきましたが、システム導入で事足りるわけではなく

一人一人の状況に対する自覚があってはじめて機能することを思い知らされました。

自分の生産した農産物の栽培履歴や情報を開示していく姿勢と、情報の中身が監査に耐えることが必要となっています。

今後とも庄内協同ファームはこの課題に答えていく必要があります、努力をする覚悟でいます。

厳しいことばかりのようですがいいこともありました。庄内の鶴岡に生まれた藤沢周平の「たそがれ清兵衛」が映画化され

上映されたことです。禄高五十石の貧乏侍井口清兵衛の凜として生きる姿に現代のわたしたちは熱いものを感じました。

庄内協同ファームは、どんなに厳しい状況でも農業をつづけたい。そのため庄内協同ファームは前に進みたいと思っています

ます。今年もよろしくお願いします。

代表理事 佐藤清夫



月22日、ようやく作物が乾きコンバインで収穫できるところまできた。

今年は、天候がよくなかったため、収穫量や品質が例年になくよくなかった。

11



これからシ - ズンをむかえる「燻したくあん」
干場で大根を手にもつ五十嵐。



11月中旬、一部収穫を始めていた大豆畑も雪がつもり収穫期がズレてしまった。



大根を燻製にして、この後に漬け込みます。



11月は、全般的に天候が悪かったが、特に中旬に雪が降りつもってしまった為、庄内柿の出荷に大きなダメージがあった。



10月15日に、鶴岡市立朝賜第6小学校5年生の生徒57名が庄内協同ファームの施設見学とお米栽培を直接農家に聞いて学びたいと云うことでやってきました。精米の施設やお米の原料で作られた加工品のポン菓子、おもちなどの加工品を前にお米の栽培から加工品になる生産製造の過程を説明しました。また、学校での教科書で学んだことのほかに、疑問に思っていることなどをグループごとの質問にまとめて提出されていたので、それをQ&A形式にして説明しました。

この子たちが大きくなった時、食にたいする関心がさらに大きく広がりをもっていることを期待したいです。

10月12日に、大阪から消費者グループ「生活者の会」の方、12名が交流懇親を深めるため庄内にきました。

さっそく、夕方から交流会を行ない会員さんと楽しく懇談をしました。(写真右)

翌日は、生産者のほ場や施設を見学し、天気も良かったので、羽黒山や月山八合目まで登って行って庄内の秋を楽しんでもらいました。



9月中旬まで連日、良い天候になって遅れていた稲の生育も回復した。庄内平野は9月18日ころから稲刈りが始まった。それまで、田んぼにポツリポツリの人や車しかなかったがこの時期になると人や物の動きがあって活気がでてくる。そして庄内平野のきわだった美しさが見られるのもこの頃だ。晴天に、平野の端の山々から積層した雲が現れ立ち上がる。その雲間から明暗のはっきりした陽射しが黄金色の穂にそそがれる。秋風に平野一面の穂が波のようにかがやいてゆれる。見ても



らいたい庄内のひとつである。

今年は、稲刈りが始まるとすぐに天候がくずれはじめた。雨がちの日が多くなってしまい、まだ平野部でも収穫が終わらない人が少なくない。昨年より遅い収穫になったようだ。

山形の作況は「平年並み」で、おとなりの秋田は日照不足の影響で「やや不良」が見込まれるそう。庄内でも「もみ摺り乾燥調整」の作業をおえて玄米にした生産者の話だと、平年作を少し下がる作況のようだ。それでも、登熟不良などによる品質への影響が少ないようで、今のところ安堵している。

田んぼの収穫を訪ねた日。

「まいでえりい。んめえ！コメ、くわせっからの-」と云っていた。

写真「米グル - プ長の五十嵐良一」9月22日少しくもりの日。

10/5



9月12日毎年の行事になった、刈り取りまえの圃場巡回。台風の被害もなく、9月に入ってからは好天気でした。今回は茎の背丈や穂数も調査しました。

減農薬や有機栽培の圃場は、バッタなどの食害被害にあったり、ヒエ・雑草の発生で他の圃場とは、違った絵になってしまっ

たところもありました。 [ヒエ発生の写真](#)



8月27日に、アジア学院留学生の第8回庄内研修（藤島町有機農業研究会）の研修地の一つに庄内協同ファームがなっているため、3時間ほどの研修目的の事業説明をしました。今年は6名の研修生でした。



8月28日の稲

8月も、あと残りわずかになります。今年の夏の庄内地方は雨の降らない日がないと思われたほど雨が切れ

間なく多く降りました。枝豆の出荷も回復しないで遅れがつづき1割ほど欠品をだしてしまいました。うーん。くやしい！残念。期待された方ゴメンナサイ。それでも、ここ2-3日は天気も良くなって順調な出荷になっ

てきました。これからは、遅れないで出荷できます。最後の収穫期の9月5日ころまで、まだの方はどうぞ。

8月20日頃から8月末頃まで出荷しているサンジュエルメロンは順調な出荷になっています。ここ2.3年は毎年1

個の玉サイズが大きいとのこと。まだ、食べたことのない方は一度召し上がって下さい。夏の終わりにさっぱりし

た味覚が楽しめます。

稲の生育は出穂で5日前後のおくれがでていましたが、稲穂の登熟期をむかえ穂が膨らみ垂れ、黄金色に色づき日々深みをましています。今は、天候が回復し、9月前半の台風や長雨がないことを祈るばかりです。

加工場では、職員を中心に新米でのもち加工品を10月から展開する準備を進めています。まもなく、新米で

の美味しいお米や、お餅をお届けします。ご期待下さい。

品種「でわのもち」にこだわって

今年の出穂のでわのもちは晩生種の為、8月10日以降から15日頃となりました。でわのもちは冷夏の時には、

大幅な減収を招きます。平成5年の大冷害の時は、刈り取りの時期まで、穂は傾きませんでした。

早生種で「こがねもち」や「きぬのはだ」というもち米を作付けしたこともあったのですが、きめの細かさ、ねばり、

又甘味などがこの庄内の作付けでは、いずれも格段の差があり、「でわのもち」の作付けにこだわっています。

今年、私のでわのもちは、イネミズゾウムシの被害で、茎数が少なく、減収しそうですが、無事に出穂を終え、

登熟期を迎えます。刈取り、水分調整も充分気を使い、良質のものを皆様にお届けしたいと思っています。

8月26日五十嵐良一



8月7日に取引先の方を案内し、志藤正一の（写真右、左：五十嵐）ほ場をみました。
有機栽培、減農薬栽培とも茎のガッシリした稲に成長していました。

有機・減農薬栽培の特徴でもありますが今年も、ほ場にはイナゴが多く発生し葉が食べられた痕が多くありました。
（写真クリック）

まもなく出穂がはじまり、一面が黄金色に染まりはじめます。

いよいよ「だだちゃ豆」の収穫が本格的にはじまりました。味、品質とも期待に応えたく努力していますが、6月の冷

たい風と7月の長雨で収量がよくありません。思わぬ苦戦です。

予定数量が確保できなく出荷数がまとまらず、ご迷惑をおかけしています。申し訳ありません。 8月3日 事務局

7月1日に枝豆部会で、有機枝豆の畑を見て回り生育状況を確認しました。（[当日の写真](#)）

6月10日から12日の3日間、アファス認証センターによる有機認証の監査、検査がありました。

有機農産物は（もち米、うるち米、枝豆、黒豆、青豆）3年目に入り新たな生産者も増えました。ほ場の検査と

有機加工食品（もち加工）、有機小分け管理（精米）の監査を行いました。



アイガモ農法のほ場



紙マルチ（炭）のほ場

6月8日、恒例になった「ほ場巡回」を行い、田植後の田んぼを見て回りました。写真は有機栽培米の除草を目的にした3とおりの農法、技術で栽培したほ場です。

6月の米農家の様子は「[ファムだより](#)」に



表層発酵農法（トロトロ層）のほ場

紙マルチ（炭）のほ場



5月7日あいにくの曇りで風が少しありましたが、紙マルチの田植を今年一番に菅原孝明の圃場で行いました。今年、庄内協同ファームで11名の生産者が紙マルチに取り組み有機栽培の技術的蓄積にむけて頑張っています。紙マルチの田植機械は（上の写真）一台しかなく、また、5月中旬ころは風が強く（風ではがされることや、苗傷みを心配して）作業を中断したりて、みんなに田植機が回り、終わるまでに16日間（7日に開始してから23日まで）作業日数がかかりました。[ファームだより](#)に関連記事



藤島町花のふじの花まつりが5月3日に開催され、田植え準備に忙しいなか、もち搗きの参加をしました。



3月16日に第2回生産者集会を開催し、茨城大学農学部教授中島紀一氏より情勢激変下の戦略論「崩壊の時代」に生きる普遍的庶民像という題目で講演をいただきました。2時間ほどの講演内容の要旨を、「[No83庄内協同ファームだより](#)」に簡略要約しました。

当農事組合法人の富樫英治・裕子夫妻の長女紀子さんが、平成13年度、毎日農業記録賞優秀賞を受賞しました。

農家の後継ぎとして生まれた事を心のどこかで意識しながら育った彼女が自分の立場に悩み、揺らぎ、様々な葛藤を

繰り返す中でたどり着いた今のスタートラインを振り返っています。自分の心の奥底に潜んでいたものと真摯に向かい

合いながら綴った文章は、心打つものがあり、ぜひ皆さんにもご紹介したく今回の掲載となりました。心からの祝福と

声援をもって、紀子さんの受賞と就農を讃えたいと思います。

[「夢はまだ一次発酵」](#)

[過去のデ-タ-](#) (1998.10-2001.4)

[表紙のペ-ジに戻る](#)

[目次ペ-ジへ](#)

